

国際戦略経営研究学会

The International Academy of Strategic Management

NEWSLETTER VOL. 7.No.1

2018/1/15



(内容)

- 1 会長新年ご挨拶
- 2 第11回年次大会・研究発表大会のご案内
- 3 第10周年記念大会開催のご報告
- 4 2017年度第1回理事会報告
- 5 編集委員会よりのお知らせ
- 6 事務局からのお知らせ

1. 会長新年ご挨拶

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願い申し上げます

謹んで新春のお慶びを申し上げます。新しい年を迎え、会員のみなさまもそれぞれ新たな思い、抱負をお持ちのことと思います。本年が良い年でありますようお願い申し上げます。

さて、本学会が設立されたのは、2008年1月ですのでちょうど満十歳の誕生日を迎えることとなりました。これまでの会員のみなさまのご協力、ご支援につきまして、心よりお礼申し上げます。本年も、研究発表大会、研究会、ジャーナル発行を中心に学会活動を推進してまいりますので、積極的なご参加、論文投稿をお願いいたします。本年の研究発表大会は、9月8日～9日に電気通信大学で開催する予定です。詳細につきましては別項でお知らせいたしますが、まずはダイアリー・手帳に9月8日～9日に大会の予定をご記入いただければと思います。

さて、本年は満十歳の年ですが、学会のさらなる発展に向け、引き続き次の課題に取り組んでいきたいと考えています。まず第1の課題が「会員の拡大」です。学会を継続的に発展させていくためにも、500人規模に接近する必要があります。既存会員のロイヤリティ、リテンションを高めるとともに、経営学・ビジネススクール系教員や院生、会員の指導院生へのプロモーションを行っていききたいと思います。その前提としては、学会の魅力を高めることが重要です。そのため、第2の課題として「研究交流の拡充」に取り組めます。これまでの研究発表大会、研究会を継続するとともに、研究方法論のチュートリアル、実践研究のシンポジウムといった新たな研究交流の場の設置を検討します。また、学会の魅力を高めるもう一つとして、第3の課題「研究発信力の強化」も重要です。学会誌編集委員会の体制的整備や電子ジャーナル化等により、円滑な査読プロセスの推進と投稿数・採択論文数の増加を図っていきます。最後に、以上の基盤となりますが、第4の課題として、「学会運営の効率化と持続可能な仕組みの構築」を引き続き進めていきます。

このような取り組みにより、学会の魅力を高め、会員を拡大し、その結果さらに学会の魅力を増すという好循環を生んでいきたいと考えています。そのためには、会員みなさま方のご参画、ご支援が不可欠です。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

2018年 元旦
国際戦略経営研究学会会長 歌代 豊

2. 国際戦略経営研究学会 第11回年次大会・研究発表大会のご案内

本年度の第11回全国大会の日程、統一テーマ等が下記の通り決定致しましたので、お知らせ申し上げます。下記の要領で開催予定ですので、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

2.1. 開催場所と開催日

- ・開催場所：電気通信大学（東京都調布市）
- ・開催日：2018年9月8日（土）～ 9日（日）

2.2. 統一テーマ・趣旨

大会プログラムは未定ですが、研究発表は統一テーマに関するものと自由論題による発表の2タイプから構成されます。発表内容は、戦略経営に関するものであれば、実証研究、事例研究、分析フレームワークの提案などのいずれでも可能です。

大会テーマ：AI時代の戦略経営

趣旨：

本年度は第11回大会となります。これは、本学会が新たな10年に向けてスタートする大会であることを意味します。これまでの大会を通して、創立の理念である「戦略経営」の理論の構築、その普及による企業活動への貢献に努め、成果を上げてきたと思います。しかし、理論構築および企業活動への普及に関しては、なお取り組みの途上であるといえます。とりわけ理論と企業活動にとっては、IoT、ビッグデータ、そしてAIに象徴される各種の技術革新の加速、政治・経済その他の要因で不確実性は高まりこそすれ、安定化には程遠い環境です。

こうしたダイナミックに変化する環境下に置かれている企業の存続と成長に資するため、本学会には一層の努力と貢献が求められています。そこで、第11回大会ではIoT・ビッグデータ・AIに代表される新時代を象徴的にとらえ、「AI時代の戦略経営」をテーマに、みなさんと共に考えたいと思います。

デジタルビジネスを活用して急成長してきた企業は、創業者のビジョンを共有しながら、トライアンドエラーを何回も繰り返して成長しています。過去に成功体験のある企業ほど苦戦している背景には、そのようなベンチャースピリットの不足があるではないでしょうか。

今後訪れる本格的なAI活用時代における戦略経営には、創業の精神を大切にしながらも、環境の変化を感じ取り、戦略を転換してチャレンジし続けるスピリットが必要です。

以上が統一テーマの趣旨ですが、第 11 回大会となる本年度のテーマは、本学会創設の原点に立ち返ります。本大会では、戦略経営とは何かを再確認するとともに、タービュラントで不確実な経営環境で成長を続けるには何が必要かを考えたいと思います。学会活動のさらなる活発化と、新時代の企業の競争力向上にも貢献できると考え、多くの会員諸氏の積極的な参加を期待しております（なお、統一テーマ以外の発表も歓迎しますので、積極的にお申込みください）。

2.3. 発表形態

研究発表は、統一テーマに関するもの、自由論題に関するもののいずれについても、英語、日本語のいずれでも可能です。

2.4. 募集要領

(1) 申込み方法：学会ホームページ 大会サイトからの申込予定

(2) 原稿の言語：英語での発表の場合は英文、日本語での発表の場合は和文

(3) 申込み期限：2018 年 6 月 30 日予定

(留意点)

- ① 発表申し込み時に「報告要旨」も提出して頂くこととなりますのでご注意ください。
(規定通りに作成された「報告要旨」を伴わない申し込みは受け付けられません。)
- ② 「報告要旨」のスタイルの詳細については申込期限の 2 ヶ月前頃までに公表致しますが、ほぼ昨年までの方式を踏襲し、「A4 (40 行) で 4 枚以内 (図表を含む)」となる予定です。

3. 第10周年記念大会開催のご報告

3.1. 年次総会

国際戦略経営研究学会 第 10 回年次総会において、以下の議題について、9 月 9 日開催の理事会の議を経て総会で審議し、いずれも承認されましたのでご報告申し上げます。

(1) 平成 28 年度事業報告および収支決算についての事項

事業報告として以下の委員会の報告が行われ、収支決算について承認されました。

- ① 総務企画委員会活動
- ② 大会企画運営委員会活動
- ③ 渉外・国際委員会活動
- ④ 研究部会活動 (開催回数)

- 戦略経営理論・実践共催研究会（8回）
- 戦略的人的資源・組織開発研究会（3回）
- グローバル戦略部会（3回）
- 戦略財務・会計研究会（2回）
- 戦略経営とICT・法制度研究部会（計2回）
- 関西部会（計4回）
- 中部部会（計1回）
- Roundtable（計1回）「戦略経営理論・実践研究部会」「戦略経営とICT・法制度研究部会」と共催

⑤ 学会誌編纂委員会活動

- 戦略経営ジャーナル（電子ジャーナル）Vol.4, No.3を2016年10月に発行。
- Vol.5, No.1を2017年3月に発行。Vol.5, No.2を2017年6月発行。

(2) 監査報告についての事項

学会会則第31条に従い、石井宏宗、中村正伸監事の監査を受け、「決算報告書は収支支出の状況及び財産の有りを正しく示している」ことが報告されました。

(3) 平成27年度事業計画および収支予算についての事項

これまで通りの研究会活動、学会誌の発行を継続して行うことが確認されました。

(4) 監事の選任

次期監事として次の2名が推薦され承認されました。

大島正克 室勝弘

(5) 会員数の現状について

正会員数	327名
準会員数	9名
顧問	2名
合計	338名

(6) 来年度の全国大会開催について

来年度の年次大会の開催校は、電気通信大学に決定しました。

(7) 理事選挙について

「役員選任規定 第12条」に従って選挙管理委員が選出され、選挙管理委員のもと理事選挙が実施されました。新理事に選出された方々は以下の通りです。

(順不同) 青木英孝 浅田孝幸 安部博文 伊藤富佐雄 歌代豊 遠藤正之
長内厚 河合忠彦 北島啓嗣 岸田民樹 木村剛 幸田達郎 鈴木研一
丹沢安治 中島豊 那須野育大 野間口隆郎 林恭子 藤井享 松江英夫
松田千恵子 Benton Caroline 安田洋史 山本秀男 横澤公道 (以上25名)

(8) 会長、常任理事の選出

大会2日目の9月10日に開催された新理事による第1回の理事会において、「役員選任規定 第12条」に従って次の役員が選出されました。

会長：歌代豊 常任理事：河合忠彦 木村剛 鈴木研一 丹沢安治 中村潤
西尾弘一 山本秀男

3.2. 第10周年記念大会の報告

2017年9月9日、10日の2日間にわたり、「IoTとインダストリー4.0が引き起こす新たなビジネスモデル」を統一論題とし、明治大学駿河台キャンパスにおいて10周年記念大会が開催されました。設立10周年を記念した今回は、会長をトップとし、関連理事、開催校等から成る10周年記念大会委員会（大会委員長：丹沢安治、大会実行委員長：高橋宏幸、プログラム委員長：歌代豊、プログラム副委員長：薄上二郎）を組織し、企画・準備を進めてきました。

そして、大会では、統一論題シンポジウム、統一テーマセッション、自由論題セッション、自由論題英語セッション、院生セッションを設け、8つのシンポジウム講演、25の研究発表が行われました。両日の参加者は、会員・非会員を含め計100人でした。

1日目の9日午後には、国内外の研究者・実務家をお招きし、古屋紀人先生（University of Missouri - Saint Louis）の総合司会により、英語による統一論題シンポジウムを開催しました。Maurice Dawson氏（University of Missouri - Saint Louis）に“Cyber Security Architectural Needs in the Era of Internet of Things and Hyperconnected Systems”，谷繁幸氏（日立製作所）に“Tryings to the 4th Industrial Revolution”，丹沢安治先生（中央大学）に“Guiding Principles for Japanese Manufacturers in the Era of IoT/ Industry 4.0”，Andre Mahl氏（FA Service Corporation）に“Platform-Building in German Machine Tools Manufacturer”を講演いただきました。その後、講演者がパネラー、古屋先生がモデレータとなり、パネルディスカッションを行い、IoT/Industry 4.0時代の生産革新とサイバーセキュリティのあり方等についての議論がなされました。

2日目の10日午後は、国内の実務家を中心とした統一論題シンポジウムでした。竹林一氏（オムロン）に「IoTをベースにした価値創造とセンシングデータトレーディング市場創成の取り組み」、鈴木俊博氏（ドコモ・インサイトマーケティング）に「モバイル空間統計とエリアマーケティングへの応用」、浜屋敏氏（富士通総研）に「IoTによる価値創造とビジネス構造へのインパクト」、歌代豊氏（明治大学）に「IoT～ビッグデータ～AI時代におけるビジネス革新の可能性と課題」を講演いただいた後、講演者4名によるパネルディスカッションを行いました。IoT～ビッグデータ～AI時代におけるセンシングデータの生成から応用に関して、現状と今後の可能性について討議されました。

このように2日間の10周年大会をとおして、有意義な研究発表、シンポジウムを行うことができました。シンポジウムの講師、研究発表の発表者、司会者、および参加いただいたみなさまに、心より感謝申し上げます。

10周年記念大会委員会

4. 2017年度第1回 理事会報告（2017年11月19日）

常任理事及び理事の役職分担が審議のうえ、以下のように決定されました。

（敬称略）

委員会	担当常任理事	担当理事	アドバイザー/委員
総務企画	委員長 西尾弘一 副委員長 木村剛	木村裕斗	王玲玲、中村正伸
学会誌編集	統括委員長 河合忠彦 補佐 西尾弘一 委員長 （英語） 中村潤 委員長 （日本語） 鈴木研一	青木英孝、北島啓嗣、幸田達郎、 那須野育大、安田洋史、横澤公道 松田千恵子、野間口隆郎 木村裕斗、高桑健太郎	永島暢太郎 Remy Watanabe
渉外・国際	委員長 歌代豊 副委員長 丹沢安治 中村潤	長内厚、Benton Caroline 藤井享、野間口隆郎、林恭子、 松江英夫、	古屋紀人
研究部会運営	統括委員長 丹沢安治 委員長 山本秀男 副委員長 鈴木研一	浅田孝幸（関西部会） 伊藤富佐雄（グローバル部会）、 岸田民樹（中部部会） 北島啓嗣（関西部会） 野間口隆郎（関西部会） 中島豊、林恭子	徳永善昭、石井宏宗 薄上二郎、近藤信一
総会・大会企画 運営	委員長 木村剛 副委員長 山本秀男	安部博文、遠藤正之、長内厚 幸田達郎、松田千恵子、横澤公道 高桑健太郎	高橋宏幸、玉木欽也

※歌代会長は全委員会の統括責任者、2名（木村裕斗、高桑健太郎）は理事会推薦選任者

5. 編集委員会からのお知らせ

5.1. 特集号の刊行のご案内

編集委員会では、本年度、英文ジャーナルである JSMS (Journal of Strategic Management Studies) の Vol. 10, No. 1 (Sept. 2018 発行予定) にて以下の要領で特集を組むことになりましたので、皆様の積極的な御投稿をお願い申し上げます。

なお、本号から、JSMS は JSTAGE に掲載を検討中です。

(1) 特集テーマ「IoT とダイナミック・ケイパビリティ」

(趣旨) IoT 時代の到来を迎え、ダイナミック・ケイパビリティの実践的重要性が高まっており、逆にダイナミック・ケイパビリティ研究にとっても、その真価が問われようとしています。論文の具体的テーマとしては、

- ・IoT 事業で成功しつつあるダイナミック・ケイパビリティについて実証研究
- ・IoT 事業に必要な (ないし有効) なダイナミック・ケイパビリティについての提案
- ・IoT 事業の分析・処方にとって既存のダイナミック・ケイパビリティ論の有効性の検討、拡張/修正の必要性

等が考えられますが、その他、テーマに関係あれば何でも結構です。

(2) 原稿提出期限： 2018 年 6 月 15 日 (金)

(3) 論文原稿の提出先：editor@iasm.jp

(4) 注意：通常の投稿と同じですが、特に次の点に注意してください。

- ・投稿原稿は JSMS の執筆要領 (cf 下記 URL) に準拠して作成してください。

URL : http://iasm.jp/english_activity5.html

- ・英語はかならずネイティブチェックを受けて下さい。
- ・投稿に関して不明点がございましたら、論文編集委員会 (JSMS) 委員長 (中村) 宛てにご連絡をお願いいたします。メールアドレスは下記です。

メールアドレス：jyulis@shibaura-it.ac.jp

5.2. 会員による自著の紹介

青木英孝『日本企業の戦略とガバナンス―「選択と集中」による多角化の実証分析―』中央経済社, 2,800円(税抜)

コーポレート・ガバナンスは経営戦略に影響するのでしょうか。そこで、「選択と集中」による多角化の変化を経営者の戦略的意思決定の結果と捉え、東証一部企業のバブル崩壊からリーマンショック後に至る時期を対象に、企業パフォーマンスの悪化は戦略変更を促すのか、企業のガバナンス構造はこの関係にどう影響するのかを検証しました。

本書では、多角化の推移を明らかにするとともに、伝統的な日本型ガバナンスの逆機能を発見しました。大規模な取締役会と株式持ち合いは、業績悪化に感応的な戦略変更を阻害し、既存戦略の固定化をもたらしました。他方、改革が必要な低パフォーマンス企業では、社外取締役比率が高く、外国人株主や機関投資家の持株比率が高いほど、柔軟な戦略変更が実現されていました。経営の規律づけメカニズムの鍵は、取締役会のスリム化や社外取締役の導入などの取締役会改革と、資本市場からの圧力にあるといえます。

6. 事務局からのお知らせ

(1) 会費納入のお願い

日頃より学会活動にご尽力いただきありがとうございます。学会活動は会員の皆様の会費がベースです。皆様には、本年度の学会費納入をお願いいたします。

過年度分の学会費が未納の場合には、今後発刊する学会誌が送付されません。また、会費を3年間滞納した場合には会則第8条第4号に基づいて会員資格が失われます。

以上をご留意の上、早期の会費納入につきましてご協力をお願いいたします。年会費は正会員 8,000円、準会員(学生) 5,000円です。指定口座は次のとおりです。

銀行名 : ゆうちょ銀行 口座番号: 00120-3-585264

口座名義: 国際戦略経営研究学会

なお、会費納入に当たっては必ずフルネームをご記入下さい。特に校費等で振込を行う場合など、大学から学会宛に直接振り込みが行われる際にはご注意ください。

(2) 住所等変更の際のご連絡のお願い

所属・ご住所・メールアドレス等を変更された方は、速やかに学会事務局までご連絡ください。準会員で入会された方も、学生の身分を離れた場合には正会員になりますので、学会事務局までお申し出下さい。

(3) 活気溢れる学会運営のため、お知り合いの方には是非当学会への入会をお勧め下さい。ご不明の点がありましたら、下記学会事務局までお問い合わせください。

#####

国際戦略経営研究学会 (IASM)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL:03-5937-0470 FAX:03-3368-2822

Eメール secretariat:iasm.jp (:の場所に@をお入れください)

#####

写真：三浦小網代